

1. 単元名 日本と世界と「水不足」

2. 単元の目標

- ・ 「水不足」に関して、調べ学習で得た情報を人々に伝えられるよう、図や表などを用いて整理することができる。 (知識・技能)
- ・ 知識をもとに、水に関する課題を発見し、自分なりの考えをもつことができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 水に関する問題を自分事としてとらえることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

私たちが住む日本は世界的にみると、降水量が多く水が豊かな国である。また、現在は日常生活を送るうえで「水不足」に悩まされることはあまりない。そのため、ほど遠い話題として考えられてしまうが、近年、世界では「水不足」が問題となっている。世界規模の目標である SDGs（持続可能な開発目標）では、「誰もが安全に水を使うことができる未来」の必要性が名言されている。

世界の「水不足」は日本にとって関係のない話ではない。近年は、ミネラルウォーターを買って飲むことも珍しくないだろう。そのため、ミネラルウォーターの生産量は年々増え、世界からミネラルウォーターを輸入することもしている。

また、日本は食品や工業製品も輸入している。食品や工業製品を生産するためには水が必要である。そのため、輸入することは、間接的に水を輸入していることになる。この水はバーチャルウォーターと呼ばれており、「水不足」について考えるうえでの課題として認知されている。

現在「水不足」に悩まされる機会がない日本では、これらの問題に気づくことは難しいだろう。本単元では「水不足」を自分事としてとらえ世界の「水不足」、そして、いつか来るかもしれない日本の「水不足」を解決しようとする態度を育成する。

(2) 生徒観

1年生は3クラスに分かれている。これまでの総合的な学習の時間では、クラス単位で活動することが多く、SDGsに関する知識を学ぶものが多かった。授業にはまじめに取り組むが、その反面、自ら進んで考える主体的な態度はあまり見られない。また、情報を集めてまとめたり、自らの考えをもったり、話し合ったりする機会はたいへん少ない。本単元では、「水不足」に関することから、情報を集め、自らの考えをもち、話し合い、発表する機会をつくっていく。そのなかで、主体的に学ぶ姿勢を養っていきたい。

(3) 指導観

まず水についてのイメージを出し合う。生徒は水を日常的に使っていることを確認する。その水がどこからやってきているのか、身のまわり以外ではどのように使われているのかを知らないことに気づく。

そこで「世界では水不足が課題となっている。」ということ学習問題として提示する。世界では「水不足」が課題となっているが、日本では「水不足」がそれほど問題となっていないことを確認する。

次に、世界での「水不足」をミネラルウォーターやバーチャルウォーターの資料などを通して、自分事としてとらえる。日本で使われている水がどこからやってきているのか、水の使われ方はどのようなものなのかを、調べ、図や表、文章にまとめる。

さらに、自らの生活についてふりかえる。世界の「水不足」を解決するために「今の私ができること」を話し合う。節水はもちろん、身のまわりの物を作る際に水が使われていることから、ものを大切に使い、生産国にも関心をもったりするようにする。

さいごに、「水不足の現状」「課題」「今の私にできること」「これからの日本の水とのかかわり方」をまとめ、発表し、意見交流する。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・有限性・・・水の使い方について、もったいない使い方をしていないかどうかを考えられるようになることは大切である。
- ・相互性・・・世界では、水を贅沢に使い、余っている水資源の豊かな国と、水不足で人の命が失われている国がある。自らの生活をふりかえり、世界全体のことを自らのこととして考えることができることは大切である。
- ・責任性・・・私たちが水の使い方を考え、消費行動を変えていくことが何よりも大切である。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力(クリティカル・シンキング)
環境にも配慮した水の使い方、消費の仕方を行っているか、自らの生活を見つめ直す。
- ・多面的・総合的に考える力(システムズ・シンキング)
「生産者も、消費者も、地球環境も豊かになるような水の使い方、供給の仕方とは？」について考える。
- ・コミュニケーションを行う力
現在の日本の水の使い方や、フードマイレージを考慮した飲料水などについて、意見交流し深めたものを、学校外や他学年に伝え、広げる。
- ・つながりを尊重する態度
世界の知らないところでの、水不足を、水の豊かな国である日本においても、自らのこととして考え、変えていこうとしなければならない。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代内の公正
生産者も、消費者も、途上国の人たちも、地球環境も豊かになるような水の使い方、供給の仕方について追及することが大切である。
- ・自然環境や生態系保全を重視する

環境に配慮した水の供給の仕方ではないと、環境やすべての人へ安心な水を提供することは難しくなる。

・幸福感を大切にす

物が、いつでも、どんな種類も、あり余るほど手に入ることは「本当の豊かさ」ではない。

○達成が期待されるSDGs

6 水・衛生

10 不平等解消

11 持続可能な都市・まちづくり

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 世界の「水不足」を自分事としてとらえることができる。 ② 調べ学習で得た情報を人々に伝えられるよう、図や表などを用いて整理することができる。	① 知識をもとに、水に関する課題を発見し、自分事としてとらえ、自分なりの考えをもつことができる。 ② 「水不足」に関する自らの考えを主体的に他者に伝えようとしている。	① 水に関する問題を自分事としてとらえることができる ② 「水不足」に関する自らの考えを主体的に他者に伝えようとしている。

5. 単元の指導計画（全12時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 (1)	○水についてのイメージと課題を出し合う。 ・水はどのようなところに使われているのかな？ ・日本の水はどこからやってきているのかな？	・身のまわりで水はどのように使われているか、生活をふりかえらせる。 ・ミネラルウォーターを飲むかどうか聞く。	
世界の「水不足」と日本のかかわりについて調べてみよう！			
2 (3)	○世界の「水不足」と日本(自分)のかかわりについて調べる。 ・ミネラルウォーターやパーチャルウォーターの資料などを通して、自分事としてとらえる。	・ミネラルウォーター「Volvic(ボルヴィック)」を見せる。 ・農業製品・工業製品をつくるための水の使用量に関する資料を調べよう促す。(黄河の写真や、環境省の仮想水計算機など。)	ア① イ①

		<ul style="list-style-type: none"> ・「水」が理由で紛争が行われていることも伝える。 	
3 (3)	<p>○世界の「水不足」を解決するために自分たちができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の水を使おう！ ・節水！水は大切に使おう！ ・日本でつくられたものを使おう！ ・このことをみんなに知ってもらおう！ <p>○「飲料水」と「水道水」のどちらかの立場で討論を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の水」と「世界の水」を意識させる。 ・節水だけで終わることがないようにする。 ・バーチャルウォーターの視点も大切にする。 ・「飲料水」の課題ではペットボトル。 「水道水」の課題ではエネルギーどちらも課題があることを留意する。 ・「飲む場合」「米を炊く場合」など、様々な場面設定で考える。 	ウ①
4 (5)	<p>○今回の学びを他者に伝えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPを作って伝えよう！ ・新聞を作ってみよう！ ・道の駅で、発表してみよう！ ・給食の時間の放送で伝えよう！ ・動画の撮影をしてみよう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように伝えたら、より多くの人が「自分事としてとらえられるか」を意識させる。 ・「水不足の現状」「課題」「今の私にできること」「これからの日本の水とのかかわり方」にわけて考えさせる。 	ア② ウ②